

### トピックス

#### 手足口病(第 3 報)とヘルパンギーナについて

毎年この時期になると流行がピークに達する手足口病やヘルパンギーナが今年も流行のピークを迎えようとしています。手足口病については、第 21 週(5 月 19 日 ~ 25 日)に先ず一宮保健所管内で定点(県内全体では 182 個所の小児科のある医療機関)あたりの患者報告数が 5.0 を越えたため警報が発令されました。その後、流行発生警報が発令される地域は増加を続け、第 27 週(6 月 30 日 ~ 7 月 6 日)には豊田市、知多、衣浦東部保健所管内が加わり、第 28 週(7 月 7 日 ~ 7 月 13 日)現在、県内 17 の保健所管轄地域のうち 12 地区と、県内のほとんどの地域で警報が発令されています。

一方、ヘルパンギーナも第 24 週(6 月 9 日 ~ 15 日)に師勝保健所管内で定点あたりの患者報告数が 6.0 を越えたため、警報が発令されました。それ以降、第 27 週(6 月 30 日 ~ 7 月 6 日)には瀬戸と知多保健所管内の 2 地区が加わり 3 地区となった後、第 28 週(7 月 7 日 ~ 7 月 13 日)には春日井、津島保健所管内の 2 地区が加わり、現在 5 保健所管轄地域で警報が発令されています。

例年愛知県では手足口病は 7 月第 1 週をピークとする流行が繰り返されていますが、今年も同時期に当たる第 27 週(6 月 30 日 ~ 7 月 6 日)の定点あたりの報告数が 6.4 と、感染症新法が施行され患者発生数が報告されるようになった平成 11 年以降としては、最も報告数の多かった平成 11 年度の最高値 3.91(第 27 週)よりも多くなりました。今週(第 28 週:7 月 7 日 ~ 7 月 13 日)の定点あたりの報告数は 6.0 となっています。一方、ヘルパンギーナに関しては、平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 12 年の第 27 週(最高値 6.8)で、昨年も第 28 週が最高値(5.3)を示すなど、例年同時期をピークとする流行が繰り返されていますが、今年も第 27 週(6 月 30 日 ~ 7 月 6 日)の定点あたりの報告数が 4.0 であり、ピークを迎えたと思われます。今週(第 28 週:7 月 7 日 ~ 7 月 13 日)の定点あたりの報告数は 3.7 となっています。

#### 病原体検出状況

病原体定点(小児科定点に指定されている医療機関の一部)の医療機関の方には、今年の手足口病とヘルパンギーナの病原体ウイルス解明の為に(昨年、手足口病(検査検体数 = 45)ではコクサッキー A16 が約 90%、エコー 13 型が約 10%でした。ヘルパンギーナ(検査検体数 = 40)ではコクサッキー A4 が約 81%、A5 と A10 が各約 6%、A6 と A16 が各約 3%でした。)、是非積極的な検査検体の提出をお願いします。具体的な検体採取、提出要領は管轄保健所へお問い合わせください。7 月 8 日現在、衛生研究所には手足口病患者 13 名からの各 1 検体が寄せられ、7 株のコクサッキー A16 型ウイルスが検出されています。また、ヘルパンギーナ患者 12 名からの各 1 検体が寄せられ、これらの検体からは 6 株のコクサッキー A6 型ウイルスが検出されています。

一方、7月11日現在の全国における手足口病患者からの病原ウイルス分離報告数は、エンテロウイルス71型が37株、コクサッキーA16型が15株となっています。このエンテロウイルス71型による流行は1997年にはマレーシアのサラワク州（ボルネオ島）で、1998年と2000年には台湾でみられ、死亡者（それぞれ30名、50名）も出ています。我が国でも2000年には、手足口病患者から分離された病原ウイルス749株のうち、エンテロウイルス71型が50%程度を占めていましたが、2001年（分離株数390株）及び2002年（同422株）にはコクサッキーA16型が70～80%程度を占め、エンテロウイルス71型は10%以下でした。また、7月7日現在の全国におけるヘルパンギーナ患者からの病原ウイルス分離報告数は、コクサッキーA10型が17株、A6型が7株、A4型が4株、A2型が2株、A12型が1株となっています。

以下に、小児、特に4歳以下の乳幼児が主として罹る手足口病とヘルパンギーナの特徴を簡単にまとめました。

### **主な症状・感染源・感染経路**

#### **1. 手足口病**

最初、軽い発熱（高くても38台）、食欲不振、のどの痛み等で始まり、発熱から2日ぐらい経過したころから、手のひら、足のうらに、小水疱が多発します。水疱の周囲の皮膚は、やや赤みを帯びています。舌や口腔粘膜にも小水疱は多発して潰瘍状（アフタ）の生ずることもあります。伝染性のウイルス性感染症で、主にコクサッキーA16型、エンテロウイルス71型などのウイルスによって発症することがわかっています。主な感染経路は、糞便などの経口、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。症例の約40%では発熱しないといわれています。

#### **2. ヘルパンギーナ**

夏風邪の一種であるこの病気は主として6～7月頃に流行し、患者の年齢は4歳以下がほとんどですが、特に1歳代がもっとも多く、ついで2、3、4、それに、0歳代の順と言われています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭に赤いリングを持つ小さな水疱があらわれ、それが破れて浅い潰瘍をつくりますが、解熱とともに治ります。

糞便から口を介してうつりますから、保育園など幼児が集団生活を送る場所での流行がよく発生します。

### **予防方法・主な合併症**

手足口病では、水泡の中にウイルスが多く含まれるため、水泡をできるだけ潰さないようにすることと、内容液が出た場合は他に拡がらないように清潔に保つことが重要です。また、両疾患ともに感染しても症状の出ない人、症状の出る前（潜伏期間）の人から、咳・くしゃみや糞便の付着した手・物などを介して感染することがありますので、便・その他の排泄物を扱った後や食べ物を食べる前の手洗い、外出から戻った時のうがい等の実施を、日頃から習慣付けることが大切です。また、湿って暖かい鼻の穴の中ではウイルスが育ちやすいので、鼻の穴を指でほじくる行為をさせないことも大切です。ウイルスの便への排泄は症状が治った後も3～4週間ほど続きますので、この間は「おしめ」などからもうつる可能性があり、注意が必要です。

両疾患ともに一般的には軽症の病気ですが、ごく稀には重症化して髄膜炎、脳炎、心筋炎などになることが報告されています。経過中に発熱が続き、嘔吐、頭痛などの症状がおこってきた場合には、速やかに医療機関を受診されることをお勧めします。

## 「重症急性呼吸器症候群(SARS)」関連情報(第17報)

【平成15年7月16日現在】

### 現在の状況

WHOは7月5日、最後まで残っていたSARSの域内発生地域から台湾(全域)を解除しました。これにより、SARSの発生地域と指定されている地域は全てなくなり、SARSの症例定義にある「発症前10日以内に、SARSの発生が報告されている地域へ旅行した人、又は住んでいた人」に該当する条件に当てはまる人は、7月5日から10日間が経ったことにより7月16日以降世界中に一人もいなくなりました。今後、症例定義にある「発症前10日以内にSARSの「疑い例」・「可能性例」の患者を看護または介護した人、同居していた人、又は患者の気道分泌物若しくは体液に直接接触した人」に該当する条件に当てはまる人も、新たな指定地域が出現しないかぎり、早晩いなくなるものと思われます。今後、新たな情報が入り次第、感染症情報・週報でお知らせしていく予定です。

なお、厚生労働省は7月14日の局長通知で、同日からSARSを「指定感染症」として定める等の政令(平成15年政令第304号)を施行するとしました。これにより、各自治体は患者ごとに厚生労働省の指導を受ける必要がなくなるため、独自の判断で入院勧告などの迅速な対応が可能となります。また、同省結核感染症課長通知は同日、SARSについての患者、疑似症患者の判断基準等についても定めました。

この政令の中で 疑似患者及び無症状病原体保有者に対するこの法律の適用(疑似患者もSARSの患者とみなし、無症状病原体保有者は、患者とみなさない)としています。なお、SARS患者、疑似症患者の判断基準等を要約しますと、【患者】とは診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、ウイルス培養検査・RT-PCR法・血清抗体の検出によって病原体診断や血清学的診断がなされたものとなっています。一方、【疑似症患者】とは病原体診断や血清学的診断陰性の従来の症例定義による「可能性例」に相当するものとなっています。また、従来の症例定義にある「疑い例」についても、感染症発生動向調査の一環として報告することになっています)、SARSに関する情報の収集及び公表について、健康診断、就業制限及び入院に関する事項、消毒その他の措置に関する事項、医療に関する事項、SARSの病原体を媒介するおそれのある動物の輸入禁止に関する事項、費用負担に関する事項等が決められています。この政令及び患者、疑似症患者の判断基準等の詳細は、厚生労働省のホームページからダウンロードできます。

### [厚生労働省](http://www.mhlw.go.jp/index.html) ( <http://www.mhlw.go.jp/index.html> )

緊急情報；SARS 関連情報(詳細)へ 関連通知

\* 「指定感染症」とは、既に知られている感染症で国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがありながら第1類～3類に含まれていない疾患で、期間を1年に限定して政令で指定する感染症です。措置等は原則的には第1類疾患に準じることとされています。

愛知県は4月16日、「愛知県SARS対応行動計画（暫定版）」を発表しましたが、6月2日、最新の情報を盛り込んだ2訂版を新たに発表しました。

この「愛知県SARS対応行動計画」は、

[健康対策課のホームページ](#)

(<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/sars/index.html>)

からダウンロードできます。この行動計画の中で、SARS「疑い例」と「可能性例」のすべてを衛生研究所と国立感染症研究所において検査を実施することになりました。

\* [重症急性呼吸器症候群の検査法](#)については衛生研究所のホームページ  
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/sars.html>および  
[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/sars\\_kensa.pdf](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/sars_kensa.pdf)) をご覧下さい。

#### 参考

WHO (<http://www.who.int/en/>)

Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) を参照してください。

厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/index.html>)

[東南アジア等で流行している「重症急性呼吸器症候群」関連情報](#)

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1.html>) および

[伝播確認地域](#) (<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1e.html>)

を参照してください。

感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

[緊急情報 重症急性呼吸器症候群](#)

(<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/update.html>) および

[伝播確認地域](#) (<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/area-84.html>)

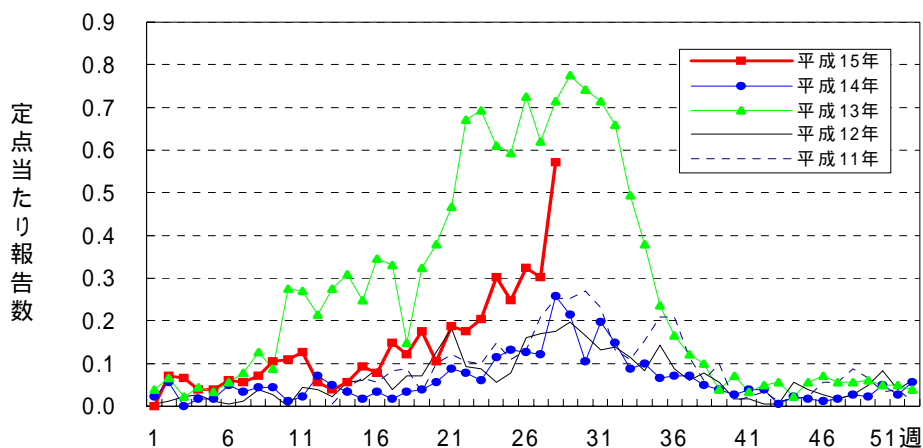
[我が国における「重症急性呼吸器症候群\(SARS\)」の疑い例等の報告状況](#)

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1c.html>)

を参照してください。

# 流行状況

## 咽頭結膜熱

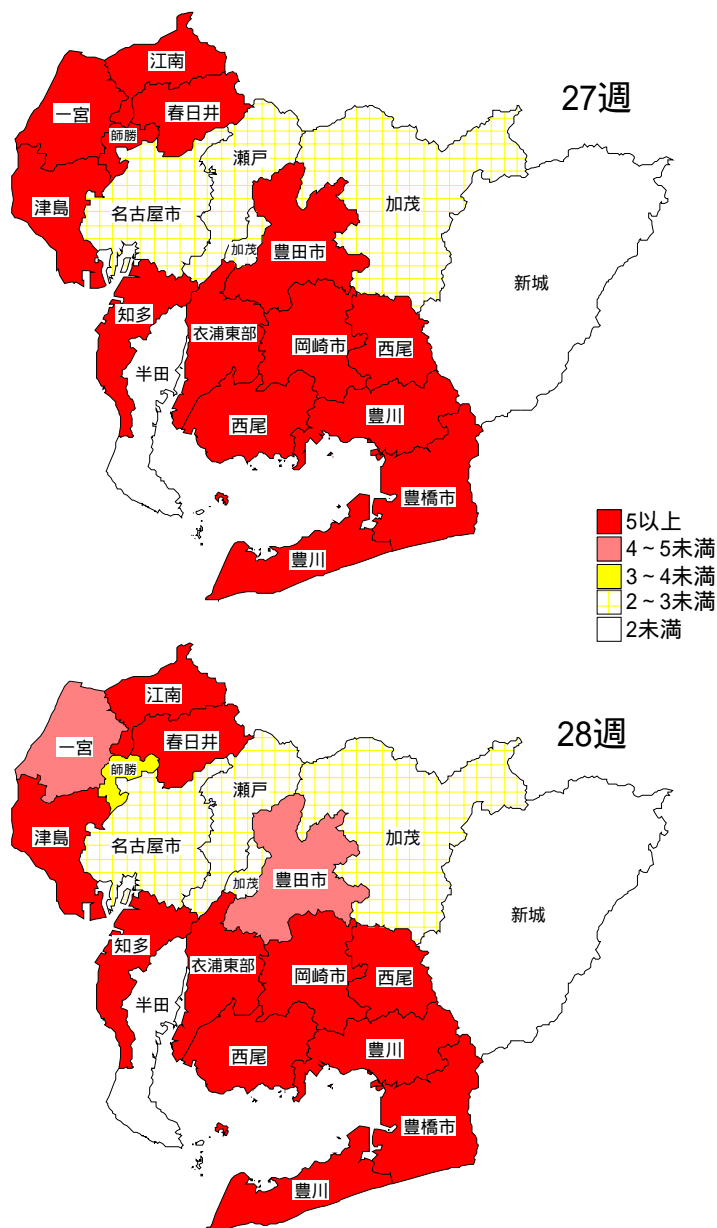


疾患名	前週	今週	備考
<a href="#">手足口病</a>	6.4 	6.0 	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<a href="#">ヘルパンギーナ</a>	4.0 	3.7 	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>	1.4 	1.3 	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症 外から帰った時には、必ず手洗いとうがいをしてください。
<a href="#">咽頭結膜熱</a>	0.30 	0.57 	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<a href="#">麻疹（はしか）</a>	0.01 	0.01 	予防にはワクチンが有効
<a href="#">マイコプラズマ肺炎</a>	0.46 	0.31 	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 5定点からコメントでの患者発生報告あり
<a href="#">無菌性髄膜炎</a>	- 	- 	細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと 1定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
横ばい	増加	減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、  
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。  
( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> )

## 手足口病の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

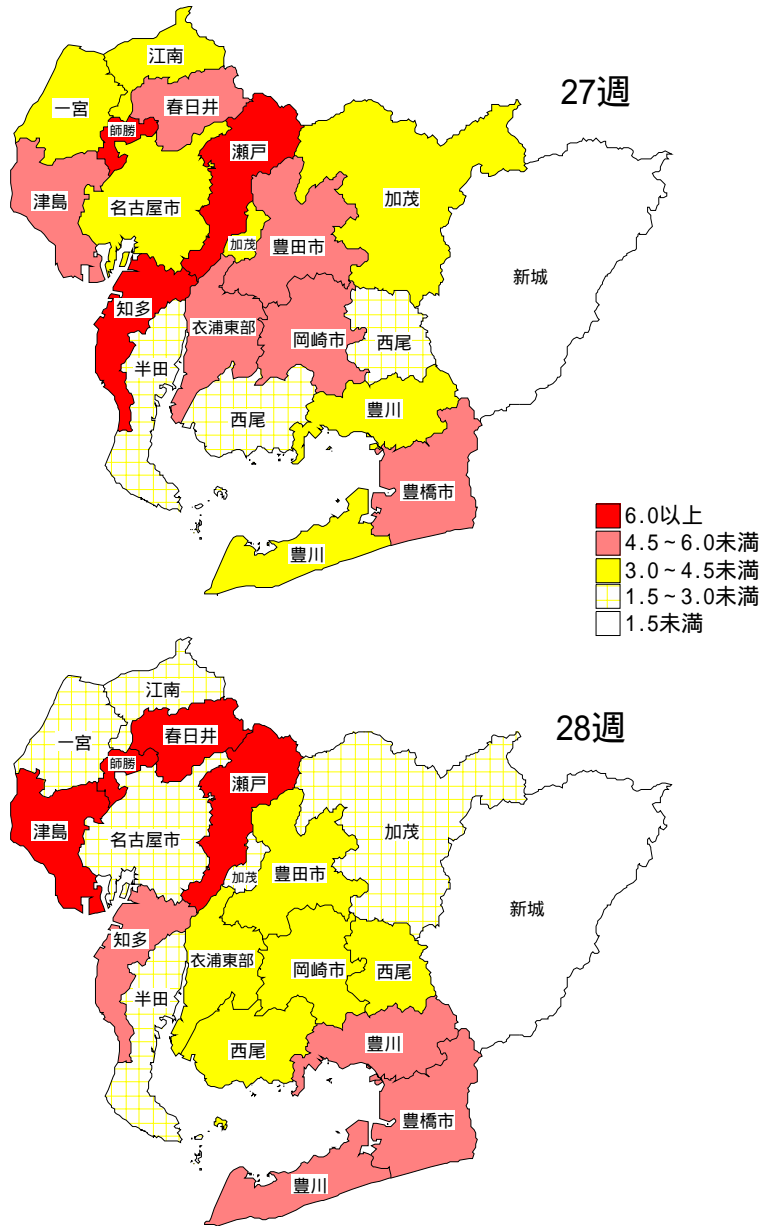


	28週	定点 当たり	27週	定点 当たり		28週	定点 当たり	27週	定点 当たり
名古屋市	148	2.11	154	2.20	岡崎市	52	7.43	54	7.71
瀬戸	21	2.33	21	2.33	衣浦東部	119	10.82	107	9.73
津島	144	20.57	152	21.71	西尾	31	6.20	32	6.40
師勝	15	3.75	24	6.00	豊田市	39	4.88	48	6.00
一宮	58	4.83	62	5.17	加茂	7	2.33	7	2.33
春日井	97	10.78	82	9.11	豊橋市	145	18.13	156	19.50
江南	58	9.67	71	11.83	豊川	107	13.38	154	19.25
半田	5	0.83	7	1.17	新城	1	0.50	2	1.00
知多	39	5.57	37	5.29					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる手足口病の流行発生警報は保健所(市)定点当たり5.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## ヘルパンギーナの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

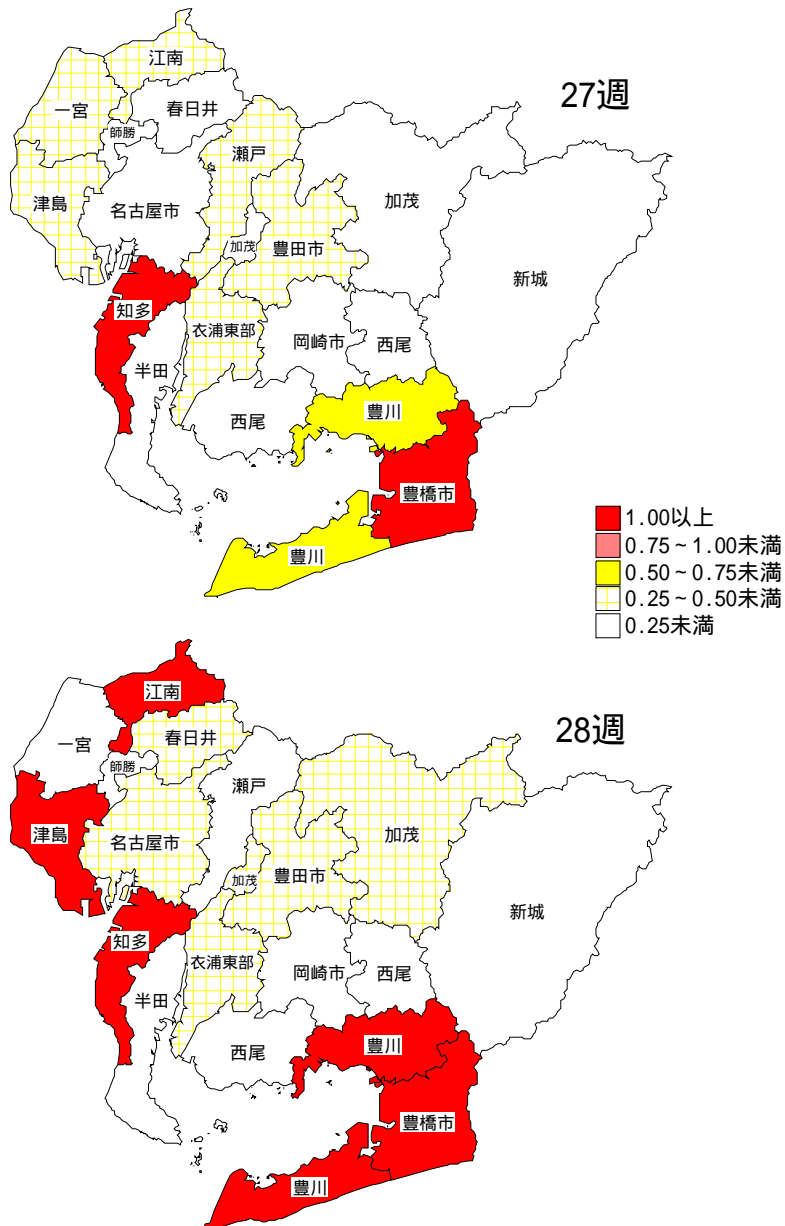


	28週	定点 当たり	27週	定点 当たり		28週	定点 当たり	27週	定点 当たり
名古屋市	196	2.80	210	3.00	岡崎市	31	4.43	38	5.43
瀬戸	55	6.11	58	6.44	衣浦東部	37	3.36	52	4.73
津島	46	6.57	34	4.86	西尾	18	3.60	8	1.60
師勝	28	7.00	41	10.25	豊田市	35	4.38	38	4.75
一宮	20	1.67	37	3.08	加茂	5	1.67	10	3.33
春日井	57	6.33	50	5.56	豊橋市	36	4.50	39	4.88
江南	16	2.67	23	3.83	豊川	37	4.63	26	3.25
半田	17	2.83	14	2.33	新城	0	0.00	1	0.50
知多	41	5.86	50	7.14					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるヘルパンギーナの流行発生警報は保健所(市)定点当たり6.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## 咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	28週	定点 当たり	27週	定点 当たり		28週	定点 当たり	27週	定点 当たり
名古屋市	21	0.30	10	0.14	岡崎市	0	0.00	0	0.00
瀬戸	1	0.11	3	0.33	衣浦東部	3	0.27	3	0.27
津島	10	1.43	2	0.29	西尾	0	0.00	0	0.00
師勝	0	0.00	0	0.00	豊田市	3	0.38	2	0.25
一宮	0	0.00	5	0.42	加茂	1	0.33	0	0.00
春日井	4	0.44	2	0.22	豊橋市	25	3.13	13	1.63
江南	9	1.50	2	0.33	豊川	16	2.00	4	0.50
半田	1	0.17	0	0.00	新城	0	0.00	0	0.00
知多	10	1.43	9	1.29					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。



## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

病原性大腸菌O1 8歳男  
病原性大腸菌O18 5歳男

【尾西市 城後小児科】

手足口病軽い症例のみです。

【一宮市 平谷小児科】

カンピロバクター・ジェジュニー 3歳男

【犬山市 武内医院】

手足口病の流行続いています。  
溶連菌感染症、少数ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

手足口病多発 口内所見軽く、発熱も少ない例が多いようです。  
無菌性髄膜炎は今週は4例でした。  
水痘も続発中です。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

3歳女 マイコプラズマ肺炎  
水痘が再び流行して参りました。

【春日町 丹羽医院】

30歳男 手足口病

【師勝町 師勝クリニック】

### 尾張東部地区

ヘルパンギーナ多くみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

溶連菌感染症減少傾向ですが、まだ流行続いています。  
ヘルパンギーナ流行中です。

手足口病も増加傾向

1歳男 咽頭結膜熱

その他、流行性耳下腺炎、水痘、伝染性紅斑、突発性発疹症、マイコプラズマ肺炎等と今週は多種の感染症みられました。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医】

41歳男 病原性大腸菌O55感染症

【豊明市 豊明団地診療所】

ムンプス、手足口病、水痘、ヘルパンギーナつづいています。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

手足口病が流行中ですが、水痘、ヘルパンギーナもみられます。

【春日井市 かちがわ北病院】

手足口病多し

マイコプラズマ肺炎流行

【小牧市 小牧市民病院】

2歳 大腸菌O157(ベロトキシン陰性)1例

【小牧市 志水こどもクリニック】

---

アデノ咽頭炎 2歳男

【東海市 東海市民病院】

ヘルパンギーナ、手足口病が見られますがやや減ってきてます。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

37歳男 病原性大腸菌O1、カンピロバクター

手足口病はまだ流行中です。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

7ヵ月女 病原大腸菌O1

11歳男 病原大腸菌O18

2歳女 サルモネラO9

11歳男、8歳女 マイコプラズマ肺炎

8歳男 イムノカードS Tアデノウイルス\* (+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

\*イムノカードS Tアデノウイルス：アデノウイルス抗原検出用試薬

3歳女 病原大腸菌O6

2歳女 カンピロバクター

6歳男 病原大腸菌O25 + カンピロバクター

【岡崎市 医療法人深田小児科】

1歳女 病原性大腸菌O6

【岡崎市 花田こどもクリニック】

10歳女 カンピロバクター

2歳女 病原性大腸菌O1 V T (-)

4歳男 病原性大腸菌O125 V T (-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

11ヵ月女 病原性大腸菌O111

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

手足口病流行が続いています。

髄膜炎合併例もあり。

【碧南市 永井小児クリニック】

2歳男 帯状ヘルペス

手足口病が相変わらず多い。

【西尾市 やすい小児科】

手足口病依然流行

アデノウイルスによる扁桃炎が目立ちました。

【西尾市 山岸クリニック】

ヘルパンギーナが多い。

1歳女、7歳男 カンピロバクター

【幸田町 とみた小児科】

異型肺炎 1歳男

感染性胃腸炎がめだちます。

【三好町 三好町民病院】

## 東三河地区

手足口病流行中

マイコプラズマ肺炎の子が時々います。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

手足口病は少し へ

【田原町 かわせ小児科】

## 1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

### 腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊田市	6	女	6 / 30	7 / 2	7 / 5	O 157 VT2(+)	
2	知多	5	男	7 / 5	7 / 7	7 / 10	O 157 VT1(+) VT2(+)	
*	半田	3	男	7 / 8	7 / 10	7 / 14	O 157 VT1(-) VT2(+)	29週報告分
*	半田	1	男	7 / 6	7 / 11	7 / 16	O 157 VT1(+) VT2(-)	29週報告分

### 細菌性赤痢

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
*	瀬戸	20	女	6 / 4	6 / 9	6 / 15		25週分の 追加報告

## 全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

梅毒 1例 (早期顕症)

後天性免疫不全症候群 1例 (無症候性)

破傷風 1例 (外傷、92歳)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

歳時記の 7 月のペ - ジに誓子のこんな句を見つけました「匙なめて童たのしも夏氷」。早く梅雨が明けて、氷菓子が美味しい日が続くようになって欲しいものです（暑くなればなつたで愚痴をこぼすでしょうけど）。いつも貴重な情報を有難うございます。6 月後半 / 7 月前半のまとめをお送りします。

- 1 ) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病が多発中でマイコプラズマ感染症は減少、ヘルパンギ - ナを含めた咽頭炎・扁桃炎の要入院例と無菌性髄膜炎が多くなっている、第一日赤松山先生からは手足口病多発、ヘルパンギ - ナ、ムンプス、水痘散見、急性気管支（肺）炎が多く髄膜炎、川崎病各 2 例入院、城北病院渡辺先生からは 1 - 2 日、39 - 40 の高熱を伴う頭痛の強い感冒で時間外患者が多く、嘔吐下痢で要入院の胃腸カゼ、下痢はなくて嘔吐と発熱の胃腸カゼが目立ち手足口病増加中、中京病院柴田先生からは手足口病増加、髄膜炎がパラパラ、労災病院山田先生からは手足口病、アデノウイルス感染症、細菌性腸炎（病原性大腸菌、カンピロバクター）、水痘、伝染性膿痂疹、ブ菌性火傷様皮膚症候群などが目立つ、大同病院水野先生からは麻疹は減少、手足口病（発熱 1 - 2 日の例が多いが中枢神経系合併症なし）、髄膜炎という程ではないが頭痛と嘔吐の例、マイコプラズマ肺炎が目立つとのお手紙をいただきました。
- 2 ) 尾張地区：江南市昭和病院小児科からはアデノウイルス感染症、無菌性髄膜炎が目立つ、常滑市民病院上田先生からは水痘、ムンプス（髄膜炎合併例あり）、伝染性紅斑、突発性発疹、咽頭結膜熱（要入院例あり）、無菌性髄膜炎、溶連菌感染症、ウイルス性胃腸炎などが目立つとのお手紙をいただきました。
- 3 ) 三河地区：知立市近藤先生からは幼稚園保育園で手足口病が流行、ムンプスと水痘がパラパラ、ヘルパンギ - ナと咽頭結膜熱が散見、刈谷市田和先生からは手足口病が目立ち感染性胃腸炎、溶連菌感染症、水痘が時々、碧南市永井先生からは手足口病とヘルパンギ - ナが増加、園児のムンプスも目立つ、豊橋市では手足口病が目立ち、ヘルパンギ - ナ、突発疹発生中（市内宮澤先生、長屋先生）とのお手紙でした。有難うございました。

**2003 年 6 月 20 日 (78 巻 25 号)**

コレラ：モザンビーク。03 年 6 月 15 日時点で届出 11,796 例（死亡 87：致死率 0.74%）。首都マプトを中心に隣国の南アフリカ、スワジランドまで同時多発。W H O は国境をこえた実態調査と対策を実施中。

腸チフス：ハイチ。03 年 5 月 30 日時点で 200 例届出（死亡 40 例）。実験室内検査で確定例 3 例。流行は乾期の 4 月から発生、ドミニカ共和国との国境地帯（僻地で医療サービス、安全な水供給困難）。W H O と同国保健省は患者発生調査、水の検査、検診車両手配、保健教育を地域単位で企画実施中。

ポリオ根絶：ナイジェリア。88 年の W H O による根絶計画開始以来、ポリオ発生数は地球規模では 99% 以上減少したが、アフリカ地区最大の人口を擁するナイジェリアは北インド、パキスタンと共に三大常在国となっている。本報は同国における 02 年 1 月 - 03 年 3 月の急性弛緩性麻痺（A F P）届出、予防接種実施状況のまとめである。定期予防接種：普及していない。W H O 届出接種率は 00 年 38%、01 年 25% である。定期外予防接種（Supplementary Immunization Activities, S I A s）：5 歳以下、ポリオ多発地区の北部 - 東北部を中心に年 2 回、集中接種（戸別訪問による絨毯爆撃的接種）が 96 年から実施。普及していない地区が多い。ポリオ発生状況：02 年 - 03 年の A F P 届出数は 3,431 例、ポリオウイルス陽性例 234 例、1 型野生株主体で一部 3 型。北部と北東部各州に分布（地図あり）。今後、S I A s 普及が望まれる。

**03 年 6 月 27 日 (78 巻 26 号)**

重症急性呼吸器症候群（S A R S）：03 年 5 月 22 日、報告数 8,000 例をこえた時点で、増加は減速している。4 月 17 日に病原ウイルスが特定されたがワクチンも治療薬もないこと、致死率が平均 15% になること、いまだに不明なことが多いことなど今後も課題が多い。減少したとはいえ、自然に流行が消退したのではなくて（過去、いくつかの感染症では病原体の病原性や感染性の変化で流行が自然消失している）、特筆すべきは国際協力のネットワーク（I T の関与が大きい）により各国関係機関の努力で罹患者を減少させたことである。原因である S A R S ウイルスの生態が不明であること、トロントの例にみられるように一旦おさまった発生が再発していることなどから、今後も国際協力による監視、届出、疫学調査網の確立と維持が重要である。

エボラ出血熱：コンゴ、ガボン。01年11月17日、コンゴに隣接するガボンで同じ家族から5例の出血熱死亡例と、多数のゴリラ、チンパンジ、猿類の死亡が地区医療従事者や自然監視員などから報告された。11月30日の患者材料からエボラウイルスが検出され10月25日 - 02年3月18日に124例の報告があった。02年6月、同地区で再度流行。いずれも発端例は猿類と接触のある猟師であった。

03年6月20 - 26日届出。コレラ：コンゴ。ペスト：アルジェリア。に対して下痢調査と対策、安全な水供給の調査と指導を開始した。罹患状況と死亡率からみて下痢は Epidemic prone diseases (EPD)・重点疾患となっている。上下水道管理と環境整備が問題となる疾患として赤痢、腸チフス、コレラなどの消化器感染症と昆虫媒介感染症（マラリア、リ - シュマニア）があげられる。水系感染症流行が多いのは南部都市のバスラを中心とした地区で、コレラ菌陽性者7名（死亡ゼロ）をWHOチームが発見、バスラ当局は70例のコレラ陽性者、1,283例の水様下痢（964例は5歳以下の小児）を報告しているが、届出や検査の態勢作りは今後の課題であり、保健関係者の訓練や街頭スピーカ - などを利用した住民教育が進行中。

百日咳：ブルガリア。1952年 - 01年。ブルガリアでは1957年に百日咳全菌体ワクチン製造が開始され1960年にはDPT三混が開発、74年から生後3ヵ月、92年からは生後2ヵ月の初回接種と1歳半の追加接種が実施され、接種率は88%以上となっている。本報はWHOの診断基準による実態調査のまとめである。発生数と死亡数：1960年代後半から減少、1982年以降激減。01年の1年間百日咳検査依頼数214、届出数81。年齢分布：1歳以下45%、1 - 4歳28%、5歳以上39%。

インフルエンザ。5月 - 6月。アルバニア：A（H3N2）、アルゼンチン：A型。ブラジル：A（H1N2）。カナダ：A型とB型。チリ：散発。デンマーク：散発。ギリシャA型とB型。香港：散発。アイスランド：A（H1N1）。インド：散発。ラトビア：A（H3N2）。マダガスカル、メキシコ、ニュ - カレドニア：いずれも散発、ロシア：流行消失、南アフリカ：A（H3N2）本年初。ウルグアイ：A型、米合衆国：散発。

## 第26週(15年6月23日~6月29日)の4類感染症 (全国)

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県(2.4)、富山県(2.1)、福井県(1.2)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少し、0.18であるが、過去4年間と比較してかなり多く、都道府県別では岡山県(1.0)、青森県(0.8)、宮城県(0.8)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少し、都道府県別では宮崎県(4.1)、富山県(2.7)、山形県(2.4)が多い。手足口病の定点当たり報告数は大きく増加し、都道府県別では広島県(18.5)が非常に多く、次いで静岡県(8.1)、島根県(7.1)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少し、都道府県別では北海道(1.1)、静岡県(0.8)、三重県(0.8)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は大きく増加し、都道府県別では三重県(8.8)、山口県(8.8)、鳥取県(8.7)が多い。麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数は前週と同値で、都道府県別では福島県(0.4)、栃木県(0.3)が依然として多い。急性出血性結膜炎の定点当たり報告数は微増して0.05で、都道府県別では宮崎県(4.0)、長崎県(0.9)が多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は微増して1.09で、都道府県別では高知県(3.0)、宮崎県(2.5)が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は微増して0.11で、都道府県別では広島県(0.7)、和歌山県(0.6)が多い。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.gov/jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。









愛知県感染症情報

2003年第1週～第28週(平成14年12月30日～平成15年7月13日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
計	38,580	531	4,388	16,685	8,105	5,001	802	2,820	30	21	2,444	82	2,429	23	485	1	4	7	93	0	3
～6ヶ月	518	3	8	186	208	38	4	229	4		34		2		1						
～12ヶ月	1,096	19	21	1,078	478	225	31	1,711	9	1	218	11	16		10						
0歳																	1		1		
1歳	3,227	97	112	2,593	1,444	900	48	812	6	3	609	19	109		12				9		
2歳	3,245	80	254	1,917	1,374	858	69	58	3	2	435	6	178	1	12				9		
3歳	3,321	89	537	1,879	1,494	971	87	4	1	1	457	6	368	1	16				10		
4歳	3,516	73	830	1,660	1,441	860	115		3	1	315	5	503		8				9		
5歳	2,262	65	828	1,292	880	544	115		1	2	207	3	471	1	12						
6歳	1,825	30	653	937	367	265	111	2			80	7	278		1						
7歳	1,466	28	356	741	149	112	62		1	3	32	2	159		3						
8歳	1,304	16	257	605	98	73	67	3		2	16	2	118		4						
9歳	1,336	8	148	466	51	30	26			1	17	2	61		3						
5歳～9歳																		2	16		
10歳～14歳	4,859	6	192	1,065	81	46	50	1	2	1	11	14	97	1	22				18		
15歳～19歳	1,573	2	16	287	8	5	1				3	3	10		21				2		
20歳～		15	176	1,979	32	74	16			4	10	2	59			1	3				
20歳～29歳	2,768													9	77			2	5		2
30歳～39歳	3,054													1	98			1	5		
40歳～49歳	1,182													2	50			2	4		1
50歳～59歳	892													3	68				1		
60歳～69歳	597													1	38				2		
70歳～														3	29						
70歳～79歳	352																		1		
80歳以上	187																		1		